



《 巻 頭 言 》

校長の存在意義 ～学校マネジメント～

福島県小学校長会北会津支会副会長 佐藤 寅記

(会津若松市立行仁小学校)

「校長がいなくても学校は動く。これ（学校経営ビジョン）がなくてもだ。」と、ご指導くださった先輩校長がいました。その意味は、『学校経営の善し悪しは、校長のマネジメント力にかかっている。それが、校長の存在意義だ。』と、教えてくれていたのだと思います。

学校の使命は、教育目標（めざす児童像）を達成することです。校長はその中心となり、効果的で有効な学校マネジメントを工夫します。学校マネジメントとは、学校教育目標の達成に向け、校長が、具体的で明確な学校像・児童像として「めざす方向・目標」^①を示し、高い「組織力」と効果的な「手立て」（共通実践事項）^②を持って学校を運営し、評価・改善を図りながら、その具現を図ることです。先輩校長は、続けてこう言いました。「学校名を代えても、何の違和感も持たないような、どこの学校にも当てはまるような抽象的なビジョンは、なくていい。」

先輩校長のこれらの言葉は、一般的抽象的で目的的でない「目指す児童像」や、具現の手立て（共通実践事項）が位置づけられておらず、達成に向けた方針・方向性を示すにとどまっている経営ビジョンに違和感や疑問を持っていた私に納得と自信を与えてくれました。違和感を払拭する学校マネジメントを、先に記した①と②について、拙い実践ですがご紹介します。

① 具体的で明確な学校像・児童像の設定

社会に開かれた教育課程の実現が求められる今、めざす児童像を、保護者や地域と共有することが必要です。そのためには、どのような資質・能力を育成するのかを汎用性の視点から明確にし、誰もが言えるような具体的な姿で示すことが重要だと考えます。本校では、育む資質・能力を知・徳・体の面から、（徳）「共助・協働、コミュニケーションの力」・（知）「思考力・判断力・表現力」・（体）「自己啓発の力」と設定しました。そして、その力が身に付いた一つの姿を児童像として、「あいさつできる子」「発表できる子」「目標を持ってやり遂げる子」（頭文字をとって「あ・は・も」）と示しました。また、集団生活の要である「規律」に、「礼儀」と「全力」（で取り組む）を加えた3つの要素を「素敵」と定義しました。さらに、子ども同士の教え合い学び合いで成長していく文化を、「子育ての文化」と定義し、校風・学校文化づくりを土台にした学校経営を推進してきました。

② 「共通実践事項」の位置づけ

学校教育目標の達成には、具体的な方策・手立て（共通実践事項）が必要です。そして、その実施において、教職員が手立ての目的を「共通理解」し、質の高い「共通実践」を、教職員全員が完全実施することが成否のポイントとなります。そのために、具体的な手立てと実施時期を位置づけた『「あ・は・も」アクションプラン』を作成し、その共通理解を図る校内研修会を実施して共通実践の徹底につなげてきました。また、ねらいの達成度と手立ての実践度の2つの視点から評価してきたことは、具体的な改善に有効でした。

情報発信も大切になってきました。先生方には、共通理解・共通実践を徹底させる「校長室便り」を発行し、保護者・地域には、学校理解が深まるよう「あ・は・も」や「素敵」など、重点目標に関する内容を中心として発信してきました。

これらの成果として、高い学力と規律ある態度を育むことができ、「あ・は・も」が自慢と6割の子どもが自由記述し、「99%の子どもと95%の保護者が素敵な学校」だと回答しました。来校者は、「ぜひ行仁小に通わせたいです。」と言ってくれます。

「実践なき理論は盲目であり、理論なき実践は空虚である。」を座右の銘にしています。教職人生のまとめに論文を執筆しましたが、先輩校長の期待に応えられる学校マネジメントであったか、今も自問自答しているところです。





《 堤 言 》

「働き方改革」は「安心できる職場」で

前福島県小学校校長会北会津支会副会長 佐藤 新治
(会津美里町高田小学校)

今年度、再任用教員として、担任外で複数学年・複数教科を担当のほか、補欠授業や生活・学習支援に当たってきました。担任外だし、空き時間もあるので余裕だろうと思われるかもしれませんが、実状はそうでもありません。担当する各教科授業の余剰時数は「0」ですから、指導計画・教材研究などの準備を周到にやり、授業の終始もピタッとして次の学級に向かいます。また、数値的效果を出さねば、特別な加配枠が外れてしまいます。それ相応の時間が必要です。

担任外教員がこの状況（私だけかも？）ですから、担任教員や専科・一人職の教員の状況は、より多忙を極めています。毎時の授業実践、学習進度の管理、家庭や関係機関等とも連携した生徒指導（特別支援含む）、学年・学級及び校務分掌事務等々。ここに、コロナ対応やICTの活用なども加わる中、「学力向上」や「新規不登校者ゼロ」などの数値目標は常に掲げられています。業務量はアップですが、時間は同じです。正に「限られた時間の中で最大限の効果上げる」ことが求められています。

んっ？このフレーズ、聞いたことが……。これは、文科省が教育委員会・校長に提言した「教員の働き方改革」の中の文言でした。この前段には「教員が授業やその準備等に集中し、教育の質や学校運営の持続可能性を高める観点から、教員が疲労や心理的負担を過度に蓄積して心身の健康を損なうことのないよう。執務環境を整備し……」の文言があります。

このことを受けて各学校では、業務改善を進めていく基礎として、全教職員の勤務時間の把握とその縮減に努めてきました。具体的には、行事の統合・精選、諸会議のペーパーレス化、日課表の見直し、集金事務の改良、部活動の緩和及び指導員との連携等々。しかし、校長会でも意見交換をしてきたように、方策は「出尽くした感」があり、学校現場における「働き方改革」は手詰まりの状況となっているのではないのでしょうか。

では、どんなことができるのでしょうか。私は、子どもの言葉からヒントをもらい、改めて考えさせられました。それは、生活科の自分の成長をふり返る学習の過程で「かぞくがいとあんしん」という子どもが表したフレーズです。

このことは、学校という職場にも当てはまるなど考えさせられました。「ここは安心して働ける職場だ。だから、忙しいけど、大変だけど……。」と物理的には困難でも、前向きさとやり甲斐を持ち、心理的な負担を軽減することはできるのではないのでしょうか。

では、「安心できる職場」とは？例えば、

- 窮状を把握し、見守ってくれている。
- 想いや悩みを受け止め、共有して、一緒に考え、取り組んでくれる。
- アイデアや手立てを認め、いかしてくれる。
- 進むべき方向性を示してくれる。

等々。

肝要なことは、ふだんから目で、耳で、文字で、実際の会話等でコミュニケーションが図られていることだと思います。実際は容易ではないと思いますが、管理職が率先して地道に積み重ねていくことで、裾野が広がり、雰囲気醸成され、諸課題の解決・解消にもつながっていくものと確信しています。

私はもう管理職ではありませんが、引き続き自分の立ち場から、できることを実践していきます。

アイデア実践

午前5時間制の充実

会津若松市立永和小学校 阿部 秀樹

本校では、令和2年7月から午前5時間制を開始した。コロナでの臨時休業により減少した授業時数を補充するためである。結局、約60時間確保することができた。

令和3年度は本来の目的である学力向上を目指し、引き続き継続することになり、職員に、改めて次の点を周知した。

1 午前5時間制による学力向上

- (1) 授業時数確保による学習指導充実
- (2) 余剰時数確保と計画的活用による
本来の教科指導の充実と学力向上
- (3) 放課後の教材研究時間確保による
授業の質の向上
- (4) 創意の時間設置による補充学習実施、読書力向上等の学校課題解決
- (5) 午後の出張の補欠指導減少による
担任の指導時数確保

2 午前5時間制による学校生活の充実

- (1) 時間厳守・教育活動精選・効率的行動・児童の休み時間確保による規律ある学校生活の実現
- (2) 家庭での確実な朝食摂取協力による「早寝・早起き・朝ご飯」等の健全な生活習慣の確立

3 教職員の働き方改革への寄与

- (1) 職員の休憩時間の確実な確保
- (2) 放課後の事務整理時間確保による
分掌事務の充実と多忙化解消

実施に当たっては、その前提として、授業開始・終了時刻の厳守、トイレ時間の確保、1日の予定遵守、3休み・昼休みの確保について全職員で確認した。

実施2年目も11ヶ月を過ぎた今、教育活動のあり方を一つ一つ見つめ直し、全職員で確実な教育課程実施がなされている。

会津教学「教えの心得」

- 1 授業の開始時刻と終了時刻を厳守する。
- 2 本時のめあてを板書し、まとめを行う。
- 3 児童生徒の考えを引き出す工夫をする。
- 4 児童生徒の「よさ」を見つけ、ほめる。
- 5 職員室で授業について話し合う。

アイデア実践

本校の特色

猪苗代町立千里小学校 高久 賢一

本校は、今年で創立148周年を迎えた歴史と伝統のある学校です。野口英世博士の遺訓「目的・正直・忍耐」を継承し、「千里小の学びの場は、地域の人、文化、自然のすべて」を合い言葉に「高い学力、合奏、郷土学習」等、千里ならではの学校づくりを行っています。その中から、本校の特色ある教育活動についてご紹介します。

①磐梯山ジオパーク学習

3年～6年の総合的な学習の時間に「猪苗代のよさを見つけよう」を中心テーマに設定し、磐梯山ジオパーク協議会事務局の皆様のご協力のもと、地域のよさを探究する学習に取り組んでいます。

②クロスカントリースキーの学習

冬の特色あるスポーツとして、全学年がクロスカントリースキーの学習に取り組んでいます。町小学校スキー大会への参加をはじめ、校内記録会も開催し、技能向上と体力向上に努めています。指導については、地域の方や町指導主事にも協力をお願いしています。

③合奏指導

町小学校唯一の合奏部であり、今年度は4年生以上38名が所属し、コロナ禍でしたが全会津コンクールへ参加することができました。昭和35年には、全日本学校器楽合奏コンクール東日本大会において優秀校の表彰を受けており、歴史のある合奏部であることがわかります。

以上、本校の特色ある教育活動についてご紹介しました。他にも地域人材等を活用した教育活動を行っていますが、今後も「千里ならではの学校づくり」を推進していきたいと思います。



教育随想

ハローキティーに思うこと

会津若松市立神指小学校 大西 恒夫

皆さんはキティーちゃんをご存じかと思っています。よく、保護者に話してきたことは、子どもたちにとっての教員は、キティちゃんのような存在にならなくてはならないということです。かわいらしいキャラクターなので、にこやかなイメージがありますが、実際は、目は点が2つで、鼻は豆みたくて、肝心なことは、口がないのです。ですので、笑っているのか、怒っているのか、悲しんでいるのかまったく分かりません。その理由は、「やさしさや思いやりは口で言うだけではなく、態度で示しましょうというメッセージが込められているということ。困っている人には、相手の気持ちになって自ら進んで手をさしのべて助けてあげることが必要だということをキティちゃんは教えている。」そして、「無表情だけど何かを語りかけてくれる顔。それこそが見ている人にとって癒やしになる。キティは、相手に感情を押しつけない。空気のようにそこで見ていてくれる。それがずっと一緒にいられる秘密なのでは。」ということだそうです。

自分の教員経験から考えると、子どもたちの喜びは比較的分かりやすいですが、怒りや悲しみは、気づかないでしまうことが多くありました。それでは、真の解決にはならないし、子どもを理解することはできないと考えます。子どもにとってのキティーちゃんが、周りに必ずいることで、子どもが安心して学校に来ることができるようになるのです。

学校が、独りよがりの教育に陥ることがないように、常に児童目線、保護者目線の対応を心がけていきたいと思います。

教育随想

雪も嵐も友として

猪苗代町立吾妻小学校 原田 知幸

3回目の猪苗代の冬を迎えた。校庭には長靴がすっぽりと埋まるほどに雪が積もり、これまでにない積雪となっている。

赴任1年目は歴史的な雪不足で、「事前の情報とは違って、猪苗代の冬といってもたいしたことはないな。」と高を括っていたことを今でも思い出す。（先日は退勤途中に初めて「ホワイトアウト」に遭遇し、赴任3年目にして猪苗代の冬の洗礼を受けた。）町内小学生スキー大会は、雪不足による延期の上、別会場で規模を縮小して実施した。40年以上続く大会史上初の事態となった。さらに昨年度、今年度ともにコロナで中止となり、これもまた前例のない事態となった。大会に向けて熱心に練習を積んでいた子供達の無念を思うと胸が痛む。

吾妻小の校歌3番の歌詞「白鳥集う猪苗代 雪も嵐も友として 吾妻の等は助け合い 学びの道を進み行く」には、大自然の厳しさを受け入れ、互いに手を携えてたくましく成長していく吾妻っ子の姿が表現されている。（「雪も嵐も友として」というフレーズは、温暖な地域に生まれ育った私には衝撃的であった。）子供達は雪降る朝でも元気に登校し、“with コロナ”を実践しつつ毎日のびのびと活動している。その姿はまさしく校歌3番の歌詞を体現しているのだ。3年目の冬にして、そのことを強く実

感している
昨今である。



転入校長所感

本校のよさと課題

会津若松市立川南小学校 酒井 央

本校のよさは以下のとおりです。

一つ目は、子どもたちの「素直さ・やさしさ・一生懸命さ」。これは地域性や各家庭で育まれていると感じています。

二つ目は、小規模校であること。特に、子ども同士や教職員との関係性が「どの子どもも安心してがんばれる」落ち着いた学校生活につながっています。

三つ目は、川南ESD。これは本校の特色ある教育活動で以下の3つの活動です。

(1)彼岸獅子は、地域の方が舞、笛、太鼓の指導し年6回ほど地域で発表します。子どもたちの川南プライドとなっています。

(2)障がい者施設交流は、栽培活動やクラブ活動と一緒に活動しています。子どもたちの思いやりの心を育てています。

(3)緑の少年団活動は、今年度は全国表彰も受けました。素晴らしい緑の環境は、子どもたちの豊かな心につながっています。

課題は、子どもたち一人一人に、自分の可能性を伸ばす術を身に付けさせることです。特に「考える力」を伸ばすことです。

そのために、「考えるスキルを身に付ける」

「考える力を発揮させる」「考える力の伸びを確かめる」等を大切にしていけることを全教職員で確認し、次年度の教育課程編成作業に取り組んでいるところです。



新任校長抱負

双方向で

猪苗代町立緑小学校 武藤 盛男

北会津支会の校長先生方には、これまで多くのご示唆をいただきながら日々の職務を進めることができました。特に、コロナ禍ということで難しい判断も多々ありますが、いつもの確なご助言に深く感謝いたします。

さて、緑小に着任してすばらしいと感じたことがいくつもありますが、その中でも「天神太鼓」という取組があります。10年程前に地域の方と共に創りあげた取組です。昔から伝わる伝統芸能を子どもたちが地域の方から学ぶことは広く行われておりますが、全く新たに伝統を築き上げた当時の方々の情熱に深く頭が下がる思いです。

太鼓には3～5年生が取り組み、町音楽祭をはじめ、地区の祭礼でも披露するなどすっかり緑小の顔として定着しています。

よく「地域と共にある学校」の姿が求められていますが、地域の方との交流を通し、地域にも元気を届ける取組が脈々と引き継がれてきたのです。

キーワードは「双方向」です。支援してもらう一方行の取組ではなく、自分たちも地域の一員として貢献する活動の充実です。地域も巻き込み、人と関わることで子どもたちの豊かな学びを深めていかなければと改めて思います。その結果、地域の教育力の向上や活性化にもつながります。

北会津地区内の各学校ではすでに地域と学校「双方向」の多くの取組が進められています。これらも参考に、さらに本校の伝統を積み上げていかなければと考えます。これからもご指導の程よろしくお願いたします。

新任副校長抱負

会津初 義務教育学校として

会津若松市立河東学園 飯塚 秀一

令和3年4月6日に会津初の義務教育学校河東学園が開校しました。前期課程・後期課程の児童生徒577名によるスタートです。

5・6年生における教科担任制の早期導入、6年生児童の後期課程の部活動参加など新しい試みを行っています。1つの学校となったことで、これまで以上の小中連携が求められています。

開校当初は、これまでの何をどう変えればよいのか手探りの状態でしたが、教職員が知恵を出し合いながら、9年間の学びの系統性を確保して指導にあたっています。コロナ禍にあって当初の計画通りとはいかないこともありますが、「自分たちが新たな学校を創造する」という共通理解のもと、全教職員で新たなモデルづくりを実践しています。

私自身、副校長という立場で校長の命を受け、主に前期課程を任されていますが、福島県教育委員会が求める新たな職・副校長として自分がその職責を果たしているのか分からないときもあります。迷うときや判断に困るときなど、そんなときは、校長に相談しています。それだけでなく、本会の校長先生方にも相談させていただいたり情報をいただいたりしながら学校運営をしています。

今後も、校長会北会津支会の皆様方からもお力添えをいただきながら、新たな学校「河東学園」を創りあげていきたいと思えます。



各部活動の反省

《 行財政部 》

会津若松市立松長小学校 星 尚志

本年度も、「教育行政に関する調査」の実施にあたり、快くご協力いただきましたことに心より感謝申し上げます。

お陰様で、教育諸条件の整備及び教職員の加配と待遇の改善、福利厚生の上昇等について、支会の現状や課題を把握することができました。さらに、県全体としてまとめた資料をもとに、県教育委員会や県議会、そして市町村教育委員会への要望活動や教育事務所との懇談資料として活用することができました。

年度末には、「教職員人事の反省」について調査し、次年度人事に関する要望活動の資料といたしますので、お手数をおかけしますがよろしくお願いします。

《 研究部 》

会津若松市立城西小学校 横山 譲治

本年度は2年間に及ぶ研究のまとめの年でした。しかし、感染症対策のため対面での協議は多くが困難となり、東北連小福島大会も中止となりました。第3班の古川校長先生には、我々の代表として発表に向けた準備を進めていただき、中止決定後はDVD制作に尽力いただきました。北会津支会でもその発表の場を用意できなかったことが悔やまれます。

令和4年度からは新たな研究活動がスタートします。そして令和5年8月には東北連小会津若松大会が予定されています。校長会の研究は、少しでも学校経営の質的向上につながる実践情報の共有を図ることが眼目と考えます。たった一度だけ通過する小学校6年間の実り多い学びの場となるよう、制約の中ではありますが、皆で研究を推進していきましょう。

《 生徒指導部 》

会津若松市立神指小学校 大西 恒夫

今年度もお忙しい中、生徒指導に関する調査へのご協力、ありがとうございました。

さまざまな生徒指導の問題の中で、SNSやネット利用に関するトラブルは年々深刻になりつつあります。調査をして特に気になったことは、SNSやネットの長時間利用、ネットを通じてのいじめや知らない人と会ったりすることによるトラブル、ネット依存傾向が見られる児童の存在などです。また、フィルタリング機能が付いていない機器を使用している児童が多数存在していることもあげられます。

今後も、家庭と連携しながら取り組んでいかななくてはならない問題であると思います。また、関係機関との連携を深め、問題の未然防止に向けた指導を進めることが今後ますます重要になってくると感じます。

《 広報部 》

会津若松市立城南小学校 大塚 進一

会員の皆様にご執筆いただきながら、広報「北会津」151号、152号、153号と発行することができましたこと、厚く感謝申し上げます。

広報部としましては、151号の編集を湊小樋口先生に、152号の編集を東山小高原先生に、153号の編集を河東学園義務教育学校飯塚先生にお願いし、紙面構成をまとめていただきました。また、永和小阿部先生、千里小高久先生には、ていねいに校正をしていただきました。ご協力をいただいた部員の先生方にも深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

令和4年度については、経費節約及び負担軽減の観点から、PDF原稿での発行とし、印刷については各学校にお任せすることになりました。ご負担をおかけしますが、ご協力よろしく願いいたします。